

新聞名 / 掲載日

南日本新聞 / 2019年8月23日(金)

1面 南風録

掲載 : 鹿児島市SC

## 南風録

「蛍の光」の流れる中、鹿児島駅で蒸気機関車がゆつくり動きだした。都会へ向かう少年少女とホームで見送る家族らを結ぶ紙テープが切れ、

あちこちで涙がこぼれた▼本紙で以前紹介した集団就職列車第1号の様子である。経済白書が「もはや戦後ではない」と表現した1956(昭和31)年のことだ。朝鮮戦争の特需による好景気で都会から求人が殺到した。働き手となる地方の若者は「金の卵」ともてはやされた▼この金の卵世代が定年を迎え、今や鹿児島市シルバー人材センターの中心的な役割を担う。昨年度の会員数は約3700人で過去最高を更新し、前年度からの増加数450人は全国一だった。男性に比べてまだ少ない女性に限定した入会セミナーなどが奏功したという▼会員は軽作業をしたり、企業に派遣されたりする。公園の草刈りなどで丁寧な仕事ぶりを見たことがある人も多かろう。年を重ねてもなお働く意欲のある人が多いのは心強い▼「この年でも仕事があることがありがたい」。91歳で筆耕の仕事続ける会員の言葉だ。自らの知識や技能で社会に貢献できるのは生きがいには違いない。人生100年時代への備えにもなる▼高度成長の担い手が、今度は地域の支え手に。そんな期待を込め、センターは会員世代を「銀の卵」と呼ぶ。ぜひ金にも勝る輝きを見せ続けてほしい。後に続く者たちのためにも。